

「安芸太田町らしい
教育のあり方懇話会」
及び
「熟議」の概要

「懇話会」開催期間：令和４年７月３０日
～令和６年４月２３日

「熟議」開催期間：令和５年９月２５日
～令和６年２月２０日



安芸太田町

安芸太田町らしい 教育のあり方懇話 会を開催しました

本町のあるべき教育、また本町らしい教育、更には本町としてどんな子どもを育てていきたいのかを示す教育大綱の策定に向けて、「安芸太田町らしい教育のあり方懇話会」を設置し、第1回目の懇話会を7月30日に開催しました。

（経緯については令和4年7月号町長コラムでも掲載しています。）
初回となる当日は、委員の初顔合わせを行うとともに、今後の懇話会の進め方についてや、町の概要、保育・教育の取組についての紹介をさせていただきました。

委員紹介

懇話会は橋本町長を座長とし、次の4名で構成します。

また、オブザーバーとして安芸太田町教育委員会にも参加いただきます。



森のようちえん全国
ネットワーク連盟

理事長

内田 幸一

日本における「森のようちえん」の先駆者。長野市飯綱高原を拠点に30年ほど前から野外保育を展開。

現在は、森のようちえん全国ネットワーク運営委員長、長野県野外保育連盟理事長。飯綱高原ネイチャーセンター&冒険あそびの森（長野市）代表。学校法人日吉学園とさ自由学校特別顧問。



認定NPO法人
カタリバ

ディレクター

菅野 祐太

リクルートエージェント（現リクルートキャリア）で事業企画部門に在籍中に東日本大震災が発災。休職し、認定NPO法人カタリバが運営する被災地の放課後学校コラボ・スクールの立ち上げに参加。

一時復職するも、カタリバに転職して、現在は大槌町教育委員会の教育専門官として行政支援を担当。新卒で「企業」に就職、その後「NPO」に転職し、「行政」に出向と、カタリバ内で最も異色のキャリアを歩むディレクター。



国立教育政策研究所
総括研究官

白水 始

国立教育政策研究所総括研究官。東京大学生産技術研究所リサーチフェロー。専門は学習科学・認知科学。

中央大学で大学生対象の協調学習実践、国立教育政策研究所で学習科学に基づく教育政策盤研究を展開後、東京大学で小中高生対象の協調学習実践を全国の先生方と進める。本町の協調学習の取組については12年間一貫して指導いただいている。



きのくに子どもの村
学園長

堀 真一郎

日本の教育学者、教育実践家。学校法人きのくに子どもの村学園理事長。元大阪市立大学教授。

イギリスの教育家A・S・ニールを日本に紹介した霜田静志に私淑、自らもニールの著作の翻訳者、「ニール研究会」を設立、その代表を務める。
大学の教授職を辞めて、ニールのサマーヒル・スクールを範とした新しい学校を目指して、1992年4月、和歌山県橋本市に、きのくに子どもの村小学校を開校。

●教育大綱とは

教育大綱は、地方公共団体の長が、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術および文化の振興に関する総合的な施策の大綱として定めるものです。

平成27年4月施行の改正地方教育行政法に基づき、教育、学術および文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針として、地方公共団体の長に教育大綱の策定が義務付けられました。

●安芸太田町教育大綱 改定について

本町は、教育大綱を平成31年3月に策定しているところですが、社会情勢の急激な変化に伴い、子どもたち一人ひとりが抱える課題が複雑化、多様化しています。

こうした時代の変化に対して、これまで培われてきた教育の成果を受け継ぎながら、本町教育がめざす方向性や施策等を総合的に示した指針とすることを目指しています。

安芸太田町らしい教育のあり方 懇話会(第2回)を開催しました

第2回目からは、各委員より本町らしい教育についての具体的な提言をいただくということで、トップバッターとして、森のようちえん全国ネットワーク連盟理事長内田幸一先生に「森のようちえん化に向けて」というタイトルで、森のようちえん開設までの流れや子どもたちの生活の様子、森のようちえん化に伴う課題などを順に説明していただきました。

印象的だったのは、「森のようちえん」も目指すところは子ども園や保育所と一緒にあり、必ずしも「森」が必要なわけではない。ただし「森」は本当に優れた教材であり、それを別の教材で準備しようとするは大変な労力が必要だという指摘でした。

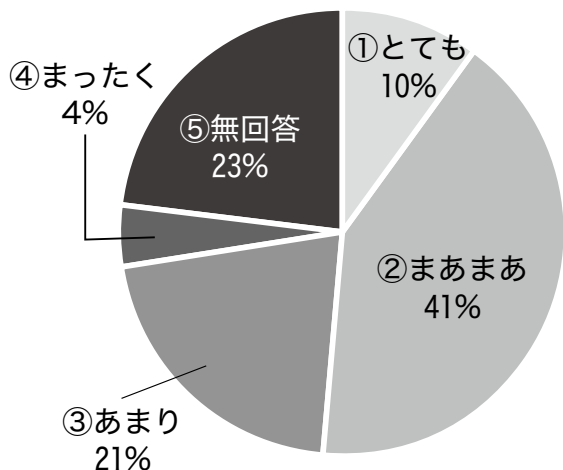
委員からは本町の自然を活かすという点で肯定的な意見が多かった一方で、会場からは、保護者や関係者の理解をどのように得るかなど課題の指摘もありました。



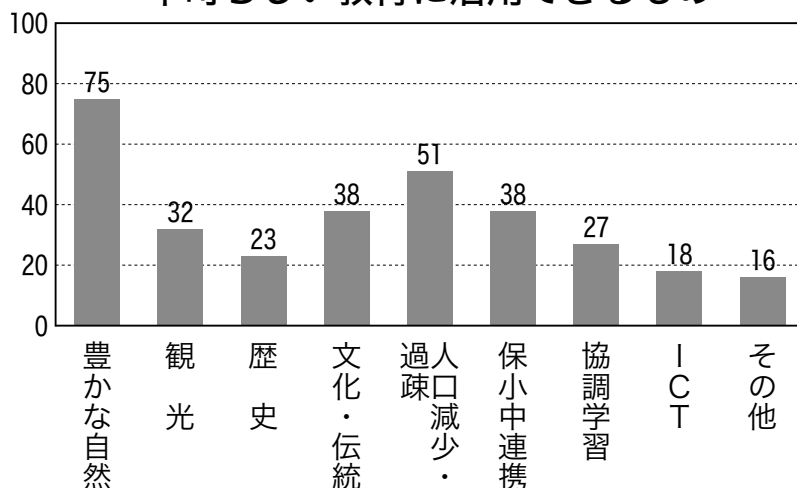
会議の動画は町の公式サイトに掲載しておりますので、詳細はそちらをご覧ください。

第1回懇話会において、現時点での町民の教育に対する思いや考えを把握すべきではないかとの意見があり、町で緊急に町民500人を対象にアンケート調査を行いました。

本町の教育の満足度



本町らしい教育に活用できるもの



第3回懇話会の日程

◆日時

12月7日(水) 18時〜

◆場所

安芸太田町役場
東館2階 大集会室

◎第3回は、きのくに子どもの村学園長 堀真一郎先生に提言いただきます。

●問い合わせ先

総務課 ☎208-2111

とりまとめ結果については、誌面の関係で町公式サイトへ掲載していますので、そちらをご覧ください。

また、公式サイト閲覧が難しい方につきましては、アンケート結果を郵送しますので、記事内の問い合わせ先までご連絡をお願いします。

(次の二次元コードからアクセスできます。リンク先 町公式サイト)



安芸太田町らしい教育のあり方 懇話会(第3回)を開催しました



第3回目の

懇話会では、

きのくにこど

もの村学園長

堀 真一郎先生

生に「体験学

習が学校を変

える」という

タイトルで発

表をいただきました。

こどもの村学園の特徴は幾つかありますが、一つは子どもたちの考えや意思を尊重することにあります。

例えば学校の規則や授業内容は子どもたちが決めますし、また普通の学校では危険が伴う活動であれば、先生が事前に回避しますが、学園では、先生方は見守ることを優先し、出来るだけ子どもたちがチャレンジする機会を確保することでした。

また、学習の中心は体験学習（プロジェクト）と呼ばれるもので、例えば「工務店」という体験学習では、その年の課題として大きな滑り台を

作るというテーマを子どもたちが決めて、縦割りの学級で1年間取り組みます。

国語や算数といった基礎的な学習は、その体験学習の中で先生方が工夫して盛り込みつつ行われています。

授業内容やテーマを子どもが決めることで自主性や主体性を確保した結果、学校で最も好きな事は授業と答える子どもが5割を超えているという先生の発表は、大変興味の惹かれるものでした。

他方、体験学習の準備も含めた先生の負担はかなり大きいという指摘や、普通の学校とはかなり取り組みが異なる点について、果たして町民にどこまで理解してもらえるか、という点などが、課題として指摘されました。

※会議の動画は町の公式サイトに掲載しておりますので、詳細はそちらをご覧ください。



第4回懇話会の日程

◆日時

2月10日(金) 18時〜

◆場所

安芸太田町役場
東館2階 大集会室

◎第4回は、認定NPO法人

カタリバ ディレクター

菅野裕太先生に提言いただきます。

●問い合わせ先

総務課 ☎28-2111

安芸太田町らしい教育のあり方 懇話会(第4回)を開催しました



第4回目の
懇話会では認
定NPO法人
カタリバ
デ
イレクター
菅野祐太委員
に「地域と
ともに高め合う
教育の推進」

というタイトルで発表していただきました。

菅野委員は東日本大震災後の被災地域の教育を支えるために、岩手県を中心に活動をされ、現在は岩手県立大槌高校の教育専門官(コーディネーター)を務めるほか、大槌町の教育大綱改定作業にも携わった経験をお持ちです。

そうした経験を踏まえて、菅野委員からは、本町らしい教育として具体的に三つの提言をいただきました。一つ目は、主体性を活かしたプロジェクト型学習の導入です。

これは、国語や数学といった学科

の授業とは別に、生徒たちが自分で課題を設定し、その解決策を自分で考えるという取り組みであり、大槌高校の事例では、これによって子どもたちの主体性が養われるとともに、その取り組みに地域住民も関わることで町の活性化にも繋がっているとのことでした。

2つ目は地域とともに高め合う科目を設置するということで、大槌町の場合、小中学校に「ふるさと科」という科目を作り、地域の皆様から地域の事を教えてもらう場を作られたところ、これによって子どもたちも故郷に愛着を持つとともに、地域も、地域ぐるみで子どもたちを育てていく雰囲気生まれてきたとの事でした。

そして3つ目がこうした取り組みを進めるためには、地域住民の参加が不可欠であり、そのためにも大綱の改定には、町民との十分な意見交換が不可欠ということを指摘いただきました。

ご自身の経験も踏まえてわかりやすくご説明をいただき、かつご自身の考えのみならず、これまでの懇話会の議論もまとめる形で、「子ども達の主体性を軸として、地域と子どもたちが共に学び合い、高めあう地域づくり」というビジョンをご提案いただきました。

※次の二次元コードからアクセスできます。

(リンク先
町公式サイト)



第5回懇話会の日程

◆日時

4月20日(木) 18時〜

◆場所

安芸太田町役場
東館2階 大集会室

◎第5回は、国立教育政策研究所
総括研究官 白水 始先生に提
言いただきます。

●問い合わせ先

総務課 ☎28-2111

安芸太田町らしい教育のあり方 懇話会(第5回)を開催しました



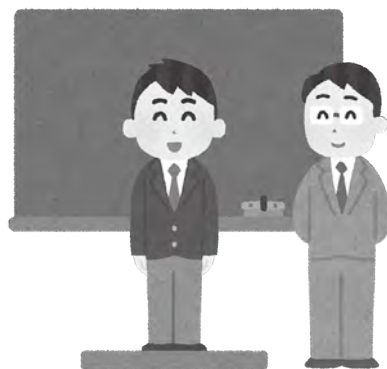
第5回目の懇話会では、国立教育政策研究所総括研究官 白水 始^{はし}委員に、「学び続けるまちづくりを目指して」というタイトルで発表をいただきました。白水委員は、本町において平成22年よりスタートした「協調学習」について、プロジェクト発足時からご指導いただいております。

これを長年続けてきた結果、町内の子どもたちは「自分の考えにこだわりをもち、根拠に立ち返りながら粘り強く考える姿」、「誰の考えも否定せずに、やり取りを通して考え続ける姿」が育ってきている、というご指摘がありました。また、発表では本町で教育を受けた方々が成人後のアンケートにおいて、本町で受けた教育で最も覚えている学習内容として、約過半数が「協調学習、授業、コミュニケーション」と答えている、というエピソードが紹介されました。白水委員からは、

- 先生が学び続けることで子どもの学びに役立つ
- 学び続けるまちは子どもをもつと育てる。
- そのまちは、巣立った子どもたちも成人になって帰ってくる。
- これからの鍵は「体験」と「未来」をつなぐこと

という提言をいただきました。

※次の二次元コードから当日の議論の様子をご覧いただけます。
(リンク先町公式サイト)



第6回懇話会の日程

◆日時

6月21日(水) 18時〜

◆場所

安芸太田町役場
東館2階 大集会室

◎第6回は、各委員からの提言も含めた論点整理を行います。

●問い合わせ先

総務課 ☎28-2111

安芸太田町らしい教育のあり方 懇話会(第6回)を開催しました



第6回目の懇話会では、町長と委員同士でさまざまな観点から議論を深め論点整理を行いました。

最初に、これまでに委員からいただいた発表・提言について振り返りました。

その振り返りに対して、各委員からの補足等をいただき、それを踏まえた上で論点整理に移りました。

論点整理としては、最初に大綱のたたき台のイメージについて、町長と委員同士で議論を行った結果、

- ◎大綱たたき台のイメージ
- 教育に特化すること
- 簡潔にすること
- 網羅的にしないこと
(重点を明示)
- 盛り込む事項としては、
 - ・どんな子どもを育てたいか？
 - ・そのために必要な取り組みは何か？

を明示することが確認されました。

その後各委員の間で、「どんな子どもを育てたいか」、「そのために必要な取り組み」について突っ込んだ議論が行われました。

最後に懇話会に参加をされた町民からは、

○(大人の役割に触れた)教育大綱があっても良いのでは。

○子どもたちの主体性に向き合うには大人も相当覚悟する必要がある、そのことを町長自身もしっかり覚悟して大綱を策定して欲しい。

といった意見がありました。

今回の論点整理を踏まえ、次回は大綱のたたき台の案を議論する予定です。

※次の二次元コードから当日の議論の様子がご覧いただけます。
(リンク先町公式サイト)



第7回懇話会の日程

◆日時

8月23日(水) 18時～

◆場所

安芸太田町役場
東館2階 大集会室

◎第7回は大綱のたたき台の案について議論を行います。

●問い合わせ先

総務課 ☎208-2111

安芸太田町らしい教育のあり方 懇話会(第7回)を開催しました

●問い合わせ先／総務課 ☎28-2111

8月23日開催の懇話会(第7回目)では前回の論点整理を踏まえ、教育大綱のたたき台(案)を各委員に提示し、内容を議論いただくとともに、今後のとりまとめ方についても議論いただきました。

※骨子案形式で紹介いたします。

安芸太田町教育大綱 たたき台(案)

本町教育の目指すもの

- 本町の学びで目指す子ども像
- 本町教育の方向性

- ・ 遊びを大事にする学び
- ・ 好奇心を育む学び
- ・ 力を合わせ共に育つ学び
- ・ 町民が参加する学び

- 「安芸太田っ子」へ
- 安芸太田の学校・園の先生方へ

- 安芸太田の保護者の皆様へ
- 安芸太田のすべての町民へ

内容については、大綱に込めたいメッセージのこと、文言による表現の仕方のこと、子どもの意見表明権のことなど、さまざまな意見をいただきました。

今後の取りまとめ方について、委員からは、今回の大綱改定を意味あるものとしていくためには、関係者を含めた町民との意見交換、いわゆる熟議が大変重要であることを指摘いただきました。そのうえで、今後は、たたき台は案のままとしながら、引き続き懇話会委員にもご協力をいただき、各関係者との熟議の場をテーマごとに設定し、大綱改定の趣旨の浸透を図っていくこととなりました。

今回は懇話会ではなく、熟議の場となります。日程などの詳細は、おってお知らせします。

※次の二次元コードから当日の議論の様子がご覧いただけます。

リンク先
町公式サイト↓



今後のスケジュール

◆第1回 懇話会

(令和4年7月29日)

◆第7回 懇話会

(令和5年8月23日)

「教育大綱たたき台(案)」

熟議

テーマ別に熟議

(例) 子ども・地域・行事など

◆第8回懇話会(まとめ)

「教育大綱たたき台」

◆安芸太田町総合教育会議 「教育大綱(案)」

策定 「安芸太田町教育大綱」

安芸太田町らしい教育のあり方と教育大綱を考えるテーマ熟議を開催します

これまで、教育大綱の策定にあたっては、安芸太田町のあるべき教育、また本町らしい教育の姿を示すため、有識者のお力もお借りしながら、「教育のあり方懇話会」を開催し、議論を重ねてきました。

前回7回目の懇話会において、各委員からの提言等を踏まえ、大綱改定のたたき台(案)を作り上げたところですが、この大綱改定を意味あるものとしていくためには、関係者を含めた町民との意見交換、いわゆる熟議が大変重要であるとのこと指摘がありました。

そこでこのたび、下記のとおり、各関係者と大綱の改定案や本町らしい教育について議論するとともに、大綱改定の趣旨をご理解いただく熟議の場を設定させていただくこととしました。

お忙しいところ申し訳ありませんが、本町の将来を担う若い世代の育成のために大変重要な議論だと思っています。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



9月25日 熟議の様子

●問い合わせ先／総務課 ☎208-2111

	日 時	対象グループ	共通テーマ	ピックアップ・テーマ
①	9月25日	役場職員	教育大綱たたき台(案)を読んで	町民が参加する学び
②	※	小・中学校教員 (全5校)		本町の学びで目指す子ども像
③	※	保育園・所職員		遊びを大事にする学び
④	※	中学校生徒 (全2校)		「はしもトーク (町長とフリートーク)」
⑤	※	加計高校生徒		力を合わせ共に育つ学び
⑥	※	P T A		好奇心を刺激する学び
⑦	※	商工会、第一次産業、 芸能・文化・NPO団体等		地域の子どもとの関わり
⑧	※	学校運営協議会 (全5校)		地域の子どもとの関わり
⑨	※	全町民		本町教育の方向性

※日時は今後、調整いたします。

安芸太田町らしい教育のあり方と教育大綱を考える「テーマ別熟議」の様子とお知らせ

令和5年10月号の「安芸太田町らしい教育のあり方と教育大綱を考えるテーマ別熟議」でお知らせしましたとおり、大綱の改定に当たっては、関係者のご協力をいただきながら、テーマ熟議を開催しているところです。

9月25日の役場職員を対象とした「熟議」を皮切りに、園・所職員、学校教員、中・高生徒のほか、学校運営協議会委員や経済・産業・各種団体など、1月末現在で19回、延べ167人の皆さんにご参加いただき、いずれも熱心な議論をいただいているところです。

この度は、これまでの「熟議」でいただいたご意見を抜粋してご紹介します。



【役場職員】

- ・文化や伝統を引き継いでいくこと。
- ・地域での活動（行事、子供会など）を行うことは、結果として子どもの思い出づくりと繋がっている。

【園・所職員】

- ・0歳からの育ちに携わる。
- ・子どもを取り巻く（家族、地域、人、モノ、環境等）全てのものとの繋がりを持たせる。
- ・遊び込む。なかでも自己決定ができれば遊びを。

【学校教員】

- ・基本的な学力、たくましさ、を身に付けさせたい。
- ・町をフィールドとした、自然、伝統、文化の体験活動を行う。

- ・一方で、教員が町のリソース（自然等の資源）を知らない。知りたい。

【生徒】

- ・中学生が外で遊べる場所が欲しい。
- ・中学生が集まれる（シェアオフィスのような）場所が欲しい。
- ・町内のまつり・イベント等は、やっぱり楽しい。
- ・広報等で、それらのイベント情報が欲しい。

【学校運営協議会委員】

- ・大人が生き生きと過ごし、進んで挨拶・声掛けをする。
- ・然るべき時には地域が子どもを叱る。
- ・地域で自然体験の場や機会をつくる。
- ・伝統・文化を残せば、子どもたちは集まる・帰ってくる。

【経済・産業・各種団体等】

- ・自然の「豊かさ」と「厳しさ」を具体的に伝える。
- ・町のことを知る「機会」と「経験」を提供する。

- ・そのことが出来るのは、地域の各分野の「先生」。

- ・その「先生」をもっと活用して欲しい。
- ・子どもが集まれる場所を増やす。

【保護者】

- ・少人数の良さ、優しい子どもたちの良さ、はある。

- ・しかし、大勢の中でも自分の意見を言うことができる「たくましい子」になって欲しい。

- ・保護者として、町の枠を出た広域での体験・交流の場を作ってあげたい。

【加計高校生徒】

- ・地域の人から学ぶ。巻き込んで学ぶ。
- ・幅広い年齢層の人と関わり、多様な考え方を知りたい。

- ・同世代で外（町外）の人と関わりたい。
- ・「井の中の蛙大海を知らず」なのかなと思っていいたら、自分のすごさや、もっと自信を持って良いことに気づいたことも。

今後、全町民を対象とした「意見交換会」を、令和6年2月20日（火）午後6時から役場東館大集会室で開催いたします。

町民の皆さんには「安芸太田町らしい教育のあり方と教育大綱について」の意見交換・議論に、是非ともご参加いただければと思います。

開催日程	対象グループ	回数	参加人数	属性	ピックアップ・テーマ
9月25日	役場職員	1回	12人	行政	町民が参加する学び
10月31日	保育園・所職員	1回	5人	保育園・所	遊びを大事にする学び
10月24日他	小・中学校教員（5校）	7回	69人	学校	本町の学びで目指す子ども像
10月30日他	中学校生徒（2校）	2回	24人	子ども	はしもトーク（町長とフリートーク）
11月6日他	学校運営協議会（5校）	5回	31人	地域住民	地域の子どもの関わり
1月26日	商工会、第一次産業、 芸能・文化・NPO団体等	1回	13人	地域の教育資源	地域の子どもの関わり
1月26日	保護者	1回	7人	保護者	好奇心を刺激する学び
1月30日	加計高校生徒	1回	6人	子ども	力を合わせ共に育つ学び
2月20日	全町民	1回	—	地域住民	本町教育の方向性

教育大綱の改定に向けて

4月23日、「安芸太田町らしい教育のあり方懇話会(第8回)」を開催しました。

これまでの「懇話会」および「熟議」を踏まえ、安芸太田町の教育大綱の改定に向けてとりまとめた「たたき台」をご報告します。

安芸太田町教育大綱たたき台

「みんなで育てる教育の未来」

本町教育の目指すもの

予測困難な時代において、常識や前提にとらわれず、ゼロから一を生み出すことが求められることから子どもたちのために、我が国の教育も、いわゆる詰め込み式の教育から主体性や独創性を培う教育へと大きく変わろうとしています。

そうした変化の中で、本町もまた、子どもたちが元気で、毎日意欲をもって生活をし、将来、自分の人生を自分で決められるように、そのために必要なたくましさをも身につけることができる「安芸太田

町らしい学び」を確立したいと考えています。

その「安芸太田町らしい学び」には、本町の恵まれた自然や文化こそが重要な役割を果たすと考えます。

本町の学びで目指す子ども像

子どもたちには自ら学び、育っていく力があります。その力を引き出すうえで、「自然」は有効な教材です。

自然は好奇心を刺激します。自然は共感力を育てます。好奇心は「試したい」という主体性を引き出し、共感力は他者とやり取りするものになります。



熟議の様子

子どもは、自然の中で問題に出会い、その答えを見つけることでまた新たな問題を見出すことができます。それが学び続けるということです。

たとえ一人で学び続けることが困難だったとしても、他者とやり取りする力が育っていれば、お互いに刺激しあって、交流を通じて新しい価値を生み出すことができます。そうした取り組みができる「安芸太田っ子」を私たちは育てたいと考えています。

本町教育の方向性

本町の目指す子どもを育てるために、「安芸太田町らしい学び」には次の特徴が必要と考え、実行してまいります。

◎なんでも学び、遊びも学び

子どもたちにとつての「遊び」は自己実現の機会です。自然の中で、時間的余裕をもって、子ども達が自分で決める場面を確保することで、自己肯定感を高め、感性を磨き、主体性を引き出す機会を作ります。

◎好奇心を刺激する学び

学び続けるためには、学びが楽しいと思えなければなりません。学びを楽しむ子どもには、学びに向かう好奇心があります。自然や社会と関わりを増やし、「体験」や「経験」する機会を増やすことで、子どもの好奇心を刺激し、主体性を引き出す教育を実現します。

◎力を合わせ共に育つ学び

他者との対話を通じて新しい価値を生み出すためには、「自分の考えにこだわりの持ち」、「相手の考え方も否定せず」、「やり取りを



通して自分の考えを作り直して」、「納得するまで考え続けること」が重要です。そうした習慣を生み出すために本町で取り組んできた「協調学習」について、引き続き取り組み、更に進化をさせます。

◎町民が参加する学び

子どもたちの「体験」や「経験」する機会を増やすうえで、町民の皆様との体験や経験を伝えていただくことも貴重な学びとなります。それがまた、皆様にとっても貴重な経験となり、より良いまちづくりにもつながります。

本町では、町民全員が教育に関わる機会を作ること、町ぐるみで子どもたちを育てます。それが初めからうまくいかなくとも、体験を踏まえ、対話を通じて、より良い教育を創り出していくことを目指します。

町として前記の「安芸太田町らしい学び」を実現するために全力を尽くすことを改めてお約束をしながら、その実現には行政の力だけでは困難であり、それぞれ関係する皆様方に、ともに目指したい姿を付記し、ご協力をお願いをさせていただきます。

「安芸太田っ子」へ

- ・自分自身を信じて、新しいことや自分の目標に挑戦する勇氣をもちましよう。町もその皆さんの勇氣を応援します。
- ・失敗しても大丈夫。失敗からこそ学べる場合があります。
- ・納得できるまで考え、自分の言葉で自分の考えを表現しましょう。
- ・友達が自分とは考え方や価値観が違ったとしても、それを認め合い、大切にしましょう。
- ・町や日本の伝統文化に親しみ、本町のことを好きでいてください。

安芸太田の学校・園所の先生方へ

- ・子どもたちとさまざまな体験を一緒にしてください。そして、ゆつくりと見守ってください。
- ・時間が許す限り、その子が納得を得られるまでつきあってもらえると幸いです。
- ・先生方が良いと思ったことは積極的にチャレンジし、実践から学び続けてください。子どもたちの好奇心を引き出す取り組みについて、町も、皆様の姿勢を

応援します。

- ・そのために必要な時間を確保するために、先生方の働き方改革を進めるとともに、環境整備については町も努力します。

安芸太田の保護者の皆さんへ

- ・先生、学校を信頼し、学校の取り組みについて、できる範囲でのご協力をお願いします。

- ・子どもとともに過ごす時間を大事にしてください。子どもの興味や意欲に気付き、それを深めたり挑戦したりすることを応援し、見守りましょう。皆さんが子どもとともに過ごす時間が増えるように、町も皆さんを応援します。



第8回教育のあり方懇話会の様子

- ・子どもの挑戦がうまくいかない時は、それを受け止めてあげてください。家族にこそできることがあります。その繰り返しを通して、学び続ける子どもが育っていきます。

安芸太田に住む皆さんへ

- ・地域の子どもと関わってあげてください。皆さんの経験で子どもたちが興味を持つことはたくさんあります。特にたくさんの方の失敗談や挑戦の経験を共有してください。

- ・子どもたちは大人の背中を見ています。子どもたちが安芸太田町を好きになるように、地域の取り組みなどに積極的に関わり、子どもたちに自信をもって帰って来いと言える安芸太田町をもに作っていきましょう。

今後は、町の総合教育会議において、この「たたき台」をもとに教育大綱の改定について議論を行い、新大綱の改定を進める予定です。